

平成 23 年度国立情報学研究所実務研修報告書

平成 24 年 1 月 31 日

鳴門教育大学教務課附属図書館事務室図書チーム

山 本 豪

目次

1. 研修の目的
2. 研修先及び研修期間
3. 研修内容
4. 研修成果
5. 受入体制, 研修環境
6. 研修を終えて
7. 添付資料

1. 研修の目的

国立情報学研究所(NII)の提供する参照ファイルとその元になる MARC について基本的な知識を習得すると共に, オンライン共同分担目録方式の最適化に向けた調査・検討を行い, 国立国会図書館(NDL)の提供する公共的書誌基盤の NACSIS-CAT への活用可能性について検討する。

2. 研修先及び研修期間

研修先: 国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課 図書館連携チーム

研修期間: 平成 23 年 10 月 1 日 (土) ~平成 24 年 1 月 31 日 (火)

3. 研修内容

3. 1 研修スケジュール概要

○平成 23 年 10 月

- ・学術コンテンツ課の事業について理解する。
- ・ターゲットとなる研修成果を決定する。

- ・ MARC21 について理解する。

○平成 23 年 11 月

- ・ NACSIS-CAT の現状と課題について理解する。

- ・ 公共的書誌基盤について理解する。

- ・ JAPAN/MARC(M)から参照ファイル JPMARC への変換について理解する。

○平成 23 年 12 月

- ・ 公共的書誌基盤(DC-NDL 形式)から CATP 形式へのマッピング表案を作成する。

○平成 24 年 1 月

- ・ 作成したマッピング表案を元に運用モデルを検討し、主な課題を洗い出す。

- ・ 成果報告発表資料を作成する。

3. 2 研修日程

○第 1 週

10/3(月) 実務研修開講式

10/4(火) CAT/ILL 担当打合せ

NII の学術コンテンツ事業概要説明

10/5(水) CAT/ILL 概要説明

ERDB 概要説明

10/6(木) 学術コンテンツサービス研究開発センター会議準備・陪席

10/7(金) CAT/ILL システムコンサルティングレビュー会

○第 2 週

10/11(火) CAT/ILL 参加館アンケート分析打合せ

CAT/ILL 担当打合せ

CAT/ILL システムコンサルティングレビュー会

10/12(水) 九州出張(九州大学・ERDB 関連)

10/13(木) 九州出張(九州女子大学・目録研修関連)

10/14(金) CAT/ILL システムコンサルティングレビュー会

研修担当打合せ

日立定例会

○第 3 週

10/17(月) CAT/ILL 担当打合せ

ERDB 打合せ

10/18(火) 千葉大学図書館・NII 千葉分館見学
10/19(水) JAPAN/MARC(M・A)MARC21 版確認
10/20(木) 学術コンテンツサービス研究開発センター会議陪席
JAPAN/MARC(A)MARC21 版確認
10/21(金) JAPAN/MARC(A)MARC21 版確認

○第4週

10/24(月) CAT/ILL 担当打合せ
ERDB 打合せ
10/25(火) 千葉大学図書館・NII 千葉分館見学
10/26(水) JAPAN/MARC(M・A)MARC21 版確認
10/27(木) 学術コンテンツサービス研究開発センター会議陪席
事前登録書誌事業内容確認
10/28(金) 事前登録書誌事業内容確認
JPMARC 打合せ

○第5週

10/31(月) 分類表(DC23)追加に関するユーザーテスト
11/1(火) カリキュラム案作成
11/2(水) カリキュラム決定
11/4(金) CATP→MARC21 変換(PTBL→490 マッピング)について確認
ERDB 打合せ

○第6週

11/7(月) CATP→MARC21 変換(TRR ハングル)について確認
11/8(火) NDL のサービスの現状について確認
11/9(水) 図書館総合展 1 日目
11/10(木) 図書館総合展 2 日目
11/11(金) 図書館総合展 3 日目

○第7週

11/14(月) ERDB 打合せ
11/15(火) 東京大学総合図書館見学
11/16(水) NDL 訪問(公共的書誌基盤関連)
11/17(木) 午前年休(宿舍施設点検のため)
NDL 訪問の記録作成

11/18(金) NDL 訪問の記録作成・情報整理

○第 8 週

11/21(月) ERDB 打合せ

11/22(火) 東京大学総合図書館見学

11/24(木) 午前年休(宿舍設備点検のため)

11/25(金) 目録システム講習会資料作成

○第 9 週

11/28(月) 実務研修中間報告会資料作成

図書館連携作業部会陪席・議事メモ作成

11/29(火) 目録システム講習会資料作成

11/30(水) 実務研修中間報告会準備・目録システム講習会資料作成

12/1(木) 実務研修中間報告会

12/2(金) 目録システム講習会資料作成

○第 10 週

12/5(月) 目録システム講習会資料作成

12/6(火) H22&H23 実務研修生懇談会

12/7(水) 第 6 回目録システム講習会(図書)1 日目

12/8(木) 第 6 回目録システム講習会(図書)2 日目

12/9(金) 第 6 回目録システム講習会(図書)3 日目

○第 11 週

12/12(月) NDL 新着図書情報→CATP マッピング表(案)作成

12/13(火) NDL 新着図書情報→CATP マッピング表(案)作成

12/14(水) NDL 新着図書情報→CATP マッピング表(案)作成

12/15(木) NDL 新着図書情報→CATP マッピング表(案)確認

12/16(金) NDL 新着図書情報→CATP マッピング表(案)確認
研修打合せ

○第 12 週

12/19(月) NDL 新着図書情報→CATP マッピング表(案)作成

12/20(火) 横浜国立大学附属図書館訪問(実務研修成果関連)・見学

12/21(水) 横浜国立大学附属図書館訪問の記録作成

東京大学総合図書館訪問(ERDB 関連)

12/22(木) 参照ファイル JPMARC の MARC21 対応に係る確認作業
NDL 新着図書情報→CATP マッピング表(案)修正

○第 13 週

12/26(月) NDL 新着図書情報→CATP マッピング表(案)修正

12/27(火) NDL 新着図書情報→CATP マッピング表(案)修正

12/28(水) NDL 新着図書情報→CATP マッピング表(案)修正

○第 14 週

1/4(水) 所長年頭挨拶・賀詞交歓会

NDL 新着図書情報→CATP マッピング表修正・運用面での課題整理

1/5(木) 運用面での課題整理・FRBR 確認

1/6(金) FRBR 確認

○第 15 週

1/10(火) 運用面での課題整理

1/11(水) 共用リポジトリ講習会参加

1/12(木) JAPAN/MARC(M)MARC21 版関連資料確認

1/13(金) JAPAN/MARC(M)MARC21 版関連資料確認

○第 16 週

1/16(月) NDL 新着図書情報→CATP マッピング表(案)作成

1/17(火) NDL 新着図書情報→CATP マッピング表(案)作成

NDL タイプ語彙一覧→GMD/SMD 変換表(仮)作成

1/18(水) 言語コード(MARC21⇔ISO639-2) の対応確認

国コード(MARC21⇔ISO3166)の対応確認

1/19(木) 実務研修成果発表資料作成

1/20(金) 実務研修成果発表資料作成

○第 17 週

1/23(月) 実務研修成果発表資料作成

情報セキュリティ研修

1/24(火) 実務研修成果発表資料作成

1/25(水) 実務研修成果発表資料作成

1/26(木) 実務研修成果発表

東京学芸大学附属図書館訪問(実務研修成果関連)・見学

1/27(金) 実務研修の整理

○第 18 週

1/30(月) 農林水産研究情報総合センター訪問(実務研修成果関連)・見学

1/31(火) NII 品質管理室見学

3. 3 研修内容

○書誌データの CATP 形式→MARC21 形式変換関連

・CATP 形式は総合目録データベースにおける書誌データの保持形式であるが、NII では必要に応じてこれを MARC21 形式に変換する仕組みを用意している。

・変換元データの TRR にハングルが存在する場合のローマ字表記変換について、確認作業を行った。

・MARC21 において tag440 が廃止されたことに伴い、PTBL フィールドデータの新たな変換先として tag490 への変換ルールについて検討した。

○参照ファイル JPMARC 関連

・参照ファイル JPMARC は、参加組織による総合目録データベースの書誌データ入力支援を目的として、NDL の書誌データ JAPAN/MARC を NII が CATP 形式に変換して提供しているものである。

・JAPAN/MARC の MARC21 対応に伴う JPMARC の仕様変更に関する仕様書確認、ユーザーテストを行った。

○教育研修関連

・目録システム講習会は、目録所在情報サービス参加機関の目録業務担当者向けのデータ入力業務に関する講習会である。本年度は既に「目録システム地域講習会」(図書コース・高知大学会場)で講師を務めていたが、前年度の NACSIS-CAT/ILL ワークショップに参加させていただくことで講師候補となっていたこともあり、本実務研修の受講が決まる以前から講師予定であったため、実務研修期間中に NII 会場で行われた「目録システム講習会」(第 6 回・図書コース)においても講師を務めさせていただいた。講習会にあたって作成した資料は全て講師用の教材バンクに登録した。

・全国で実施された目録システム講習会の受講者アンケートより、現状と課題を確認した。

・九州女子大学訪問に同行し、九州地区において行われている目録講習会(中級)についてお話を伺った。

○機関リポジトリ関連

- ・「第 8 回 DRF ワークショップ」に参加し、各大学での様々な取り組みやオープンアクセスの最新動向を知ることができた。
- ・「共用リポジトリ講習会」に参加し、NII で開発された機関リポジトリソフトウェア WEKO の基本的な利用方法を学んだ。

○ERDB 関連

- ・NII において進められている電子情報資源インフラの導入に関する調査・検討に参加し、主に記録を行った。
- ・電子情報資源の管理・提供に関する各大学や NII の取り組み、今後想定される可能性についてある程度知ることができた。

○学術コンテンツ運営・連携本部図書館連携作業部会関連

- ・我が国の最先端学術情報基盤の構築に向けて、その中核となる学術コンテンツの形成及びサービスの提供を企画・立案し、その運営を行うための具体的な事項を大学と NII で検討する場が学術コンテンツ運営・連携本部図書館連携作業部会である。
- ・平成 23 年度第 2 回学術コンテンツ運営・連携本部図書館連携作業部会に陪席し、記録を行った。
- ・機関リポジトリや総合目録データベース関連、次世代学術コンテンツ基盤構築などの事業について、報告と意見交換が行われた。
- ・大学と NII が連携関係にあることを、あらためて確認することができた。

○SPARC Japan 関連

- ・SPARC Japan とは日本の学協会の電子ジャーナルを支援することで、情報発信能力を高めることを推進する事業である。
- ・第 2 回 SPARC Japan セミナー2011『「今時の文献管理ツール」ワークショップ』に参加した。ワークショップでは 4 つの文献管理ツール（Mendeley, EndNote, RefWorks, TogoDoc）のプレゼンテーションとディスカッションが行われ、それぞれの特徴を知ることができた。

○NDL 公共的書誌基盤関連

- ・公共的書誌基盤とは NDL が推進する、NDL の書誌情報を迅速にかつ無償で提供し、広く社会で活用されることを目指すモデルである。
- ・NDL を訪問し、データ登録の流れ等についてお話をお聞きした。
- ・NACSIS-CAT への活用可能性について検討した。詳細は後述。

4. 研修成果

オンライン共同分担目録方式の最適化に向けて、これまで NII を中心として行われた検討を踏まえ、外部書誌データの活用可能性について調査・検討を行った。具体的には日本の全国書誌作成機関である NDL が「公共的書誌基盤」により提供する書誌を題材とした。

成果物として、公共的書誌基盤により提供される新着書誌情報(DCNDL-RDF 形式)から総合目録データベース書誌(CATP 形式)への変換マッピング表とそれに基づく機械的登録前提の運用モデルを作成し、運用する場合の課題をまとめた。

4. 1 DCNDL-RDF 形式から CATP 形式への変換マッピング表

新着書誌情報は 2012/1 現在 3 種類の方法・形式(RSS によるもの・OAI-PMH による DCNDL-SIMPLE 形式のもの・OAI-PMH による DCNDL-RDF 形式のもの)で提供されている。3 者を比較・検討した結果、内容がもっとも豊富で、構造的な DCNDL-RDF 形式のデータをマッピング表作成の対象とすることとした。

DCNDL-RDF 形式と CATP 形式では互いに存在しない項目があるため、よりわかりやすくするため CATP 形式の項目リストをベースにしたマッピング表 A と DCNDL-RDF 形式の項目リストをベースにしたマッピング表 B を作成し、それぞれマッピングの成否について右端列に記号で記した。

4. 2 マッピング表による検討

それぞれのマッピング表でどのように項目を割り振れるか、主に NACSIS-CAT のマニュアルにおいて重要とされる項目を中心に検討した。これには、具体的には以下の 11 項目が当てはまる。

- ・コーディングマニュアル 0.4.1A において資料種別・版・書誌構造の同一性を判断する際の基本項目として挙げられている 8 項目[1)GMD/SMD, 2) VOL, 3) TR, 4) ED, 5) PUB, 6) PHYS, 7) NOTE, 8) PTBL]
- ・上記に挙げられている基本項目と連動して記述され、基本項目として扱われる 1 項目[1) CNTRY]
- ・上記以外で入力レベルが必須 1(目録担当者は必ずデータ記入を行う)とされている 2 項目[1) TTLL, 2) TXTL]

検討の結果、大きく 4 つの課題が見出された。

課題①DCNDL-RDF 形式と CATP 形式で互いに想定していない項目がある

例えば現在の NACIS-CAT において必須項目とされている TTLL(タイトル言語コード)に相当するデータが新着書誌情報に存在しない。既存項目と想定外項目の両方について、必要性の検討が必要と思われる。

課題②NDL の提供するデータと CAT が必要としている情報の内容・粒度が異なる場合がある

GMD/SMD(資料種別コード)のように、採用するコード体系の相違により情報に過不足のある場合や、CNTRY(出版国コード)のように複数回の変換(MARC21→DCNDL→CATP)を経ることによりロスが発生する場合がある。どのような情報がどのような粒度で必要であるかの検討と、変換ロスを最小限にするため NDL と緊密なコミュニケーションを行うことが必要と思われる。

課題③機械的に特定の項目に対応させられない項目がある

TR(タイトル)・VOL(巻冊次)・CW(内容著作)・PTBL(シリーズ)といったタイトル系の情報について、解釈の違いにより項目同士の機械的な対応付けが困難な場合がある。より詳細な条件分析・設定により、機械処理の可否について検討する必要があると思われる。

課題④書誌作成単位が異なる

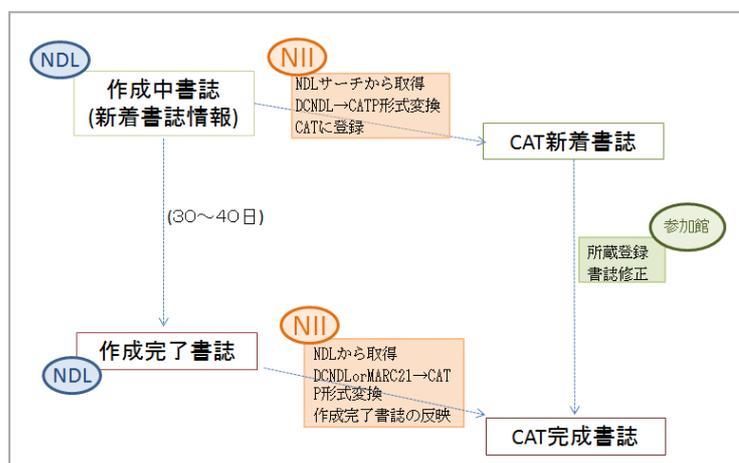
NACIS-CAT では同じタイトルであれば 1 書誌にまとめて扱うのが原則であるのに対し、NDL では同タイトルでも巻次が異なれば 1 冊ずつ個別に書誌を作るのが原則である。名寄せ等の機械処理により、どのような対処が可能であるかの検討が必要と思われる。

4. 3 運用モデル

非常に大まかではあるが、右図のような運用モデルを作成した。

基本的な流れは以下の通り。

- (1)発行・納本後、NDL から新着書誌情報が提供される
- (2)提供された新着書誌情報を NII において機械的に形式変換し、一括登録する



(3)登録された CAT 新着書誌に対し、目録所在情報サービスの参加機関は所蔵登録を(必要に応じ書誌修正も)行う

(4)概ね 30~40 日後、NDL から作成完了書誌が提供される

(5)提供された作成完了書誌を NII において機械的に形式変換し、新着書誌情報時から存在するユニーク ID である「国立国会図書館書誌 ID」をキーに CAT に登録済の新着書誌に反映し、CAT 書誌を完成させる

4. 4 運用モデルによる検討

上記運用モデルをより詳細に検討した結果、以下の3つの課題が見出された。

課題⑤新着書誌情報はいつ提供されるかの保証がない

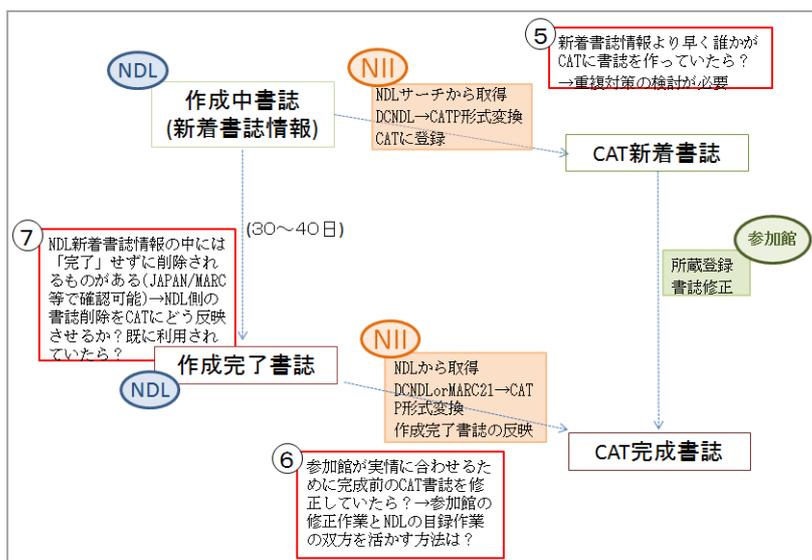
新着書誌情報の提供時期は納本時期によるので、参加機関での資料受入の方が早い場合があり得る。参加機関による作成書誌と重複しないような対策の検討が必要と思われる。

課題⑥新着書誌登録～作成完了書誌反映の間に参加機関による修正が行われる可能性がある

参加機関が新着書誌に対し情報の追加・修正を行った場合、後から作成完了書誌による上書きを行ってしまうと参加機関による作業が無駄になってしまう。作成完了書誌の反映対象となる項目を限定する等、参加機関による修正作業と NDL による目録作業の双方を活かすための検討が必要と思われる。

課題⑦NDL 新着書誌情報の中には作成完了書誌にならず削除されるものがある

具体的には逐次刊行物等が該当するらしい。NDL 側の書誌削除を NACSIS-CAT にどのように反映させるか、また新着書誌の段階で参加機関による所蔵登録があった場合どのように扱うかの検討が必要と思われる。



5. 受入体制，研修環境

- ・実務研修期間中の宿泊先として NII まで徒歩で通える距離にマンスリーマンションを用意していただき、通勤時間等を気にすることなく研修に集中することができた。
- ・十分なスペースのある机に最新のデスクトップ PC と大型ディスプレイ，NII のメールアドレス，名刺まで用意していただき，快適な研修環境であった。

6. 研修を終えて

NACISIS-CAT が運用を開始してから二十余年，「書誌レコード入力による作業負担の軽減化」が喫緊の課題であることは『次世代目録所在情報サービスの在り方について(最終報告)』(平成 21 年 3 月)に謳われているが，目録作業に携わる現場の人間として常日頃感じるところでもあった。そのような課題に対し，ある意味 NACISIS-CAT の在り方に関わるような観点から取り組ませていただけたことは，自身の視野を大きく広げたように思う。

扱ったテーマは，今回はマッピング表の作成と課題の提示にとどまったが，さらに掘り下げていくことで実現に繋がっていくのではないかと思われる。そうした方向に向かうにせよ向かわないにせよ，ひとつ確かに言えることは，「変わらないままでいることはできない」ということであろう。時代の進展とともに，目録に求められるものも変わっているはずである。方法の転換は，品質とは何かということについて改めて考える一つの契機であるかもしれない。

研修期間中，NII の方や他大学の方とお話することで，テーマ以外の部分でも刺激を受ける場面は多かった。そんな中で改めて，所属大学の一員として図書館利用者に対して何ができるのかを考える癖がついたように思う。様々なことが変わっていく中で，図書館は利用者のためにどのようにあるべきなのか，これからも考えていきたい。

7. 添付資料

- ・平成 23 年度国立情報学研究所実務研修成果発表資料
- ・NDL 新着書誌情報(DCNDL-RDF)→CATP(BOOK)マッピング表